

社叢として保全されているクスノキ林に関する研究

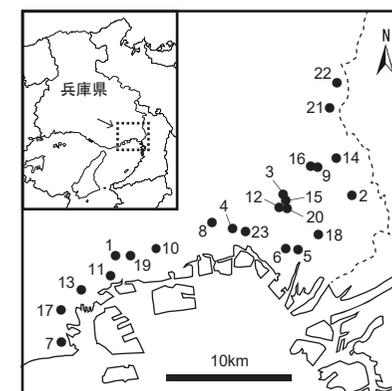


自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

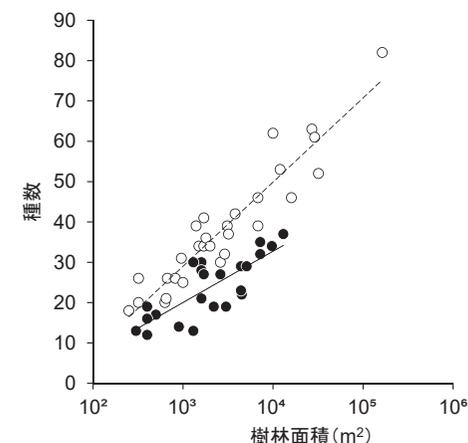
石田 弘明

兵庫県南東部の市街地には「社叢として保全されているクスノキ林」が数多く分布しています。このようなクスノキ林が市街地の生物多様性保全に果たす役割は大きいと思われませんが、その実態はよくわかっていないのが現状です。

そこで、兵庫県立大学の大学院生（小林仁氏）と一緒に、クスノキ林の照葉樹林フロラや樹林面積などに関する調査を実施し、その結果を周辺地域に分布する照葉自然林（社叢）の調査結果と比較しました。その結果、クスノキ林は照葉自然林よりも照葉樹林構成種数が少ない傾向が認められました（右図）。また、クスノキ林と照葉自然林の照葉樹林フロラを比較したところ、クスノキ林で欠落する種が数多く存在することがわかりました。



クスノキ林の調査地点



照葉樹林構成種数と樹林面積の関係
(●はクスノキ林、○は照葉自然林)